

令和 3年 月 日

二宮町長  
村田 邦子 様

二宮町政策評価委員会  
会 長 湯川 恵子

二宮町総合戦略評価に係る意見書の提出について（案）

このたび、「二宮町総合戦略」の評価に対し、二宮町政策評価委員会としての意見を「総合戦略評価シート」のとおり、とりまとめました。

また、とりまとめに際し、本委員会において、さまざまな意見交換が行われましたので、「二宮町総合戦略評価について（意見）」として、別添のとおり、提出します。

ご一読のうえ、今後の「二宮町総合戦略」の推進に活用くださいますよう、お願い申し上げます。

## 二宮町総合戦略評価について（意見）

平成 28 年 3 月に策定した「二宮町総合戦略」に定めた 4 つの基本目標及び 12 本の施策に基づき、町では地方創生に向けた取組を計画的かつ戦略的に推進してきましたが、令和元年度で計画期間の最終年度を迎えました。12 本の施策については、5 年間の取組の中で成果が認められるものもある一方、いまだ成果が上がっていないものもあるため、課題の解決に向け、本委員会の意見を参考に不断の見直しを行い、今後の地方創生の推進に役立てていただきたいと思います。

事業推進にあたっては、様々な関係者との横断的な連携が必要不可欠であることから、情報共有や対話を重ねることが重要です。これまでも情報共有に対する課題が挙げられていることを踏まえると、改めて有効性のある手法を検討する必要があります。

また、課題の要因分析については、実態やニーズを詳細に分析することが重要です。分析結果により、ニーズに応じた効果的な事業を推進するとともに、町の強みと弱みを見極め、不得意分野は改善しながら、得意分野を強く打ち出す姿勢が必要です。

さらに、これまでの取り組みを途切れさせることなく、「第 2 期二宮町総合戦略（令和 2 年度～4 年度）」につなげるには、進捗管理を行うための評価システムの見直しも重要であるため、外部評価の視点から以下のとおり意見を付します。

1 つ目に、評価を判断するための情報が不足しています。現在の評価シートからは、各事業の規模や流れ、進捗が読み取れないなどの課題があるため、可能な限り多角的な情報を追加する必要があります。ただし、情報量が膨大になると、見るべきポイントが分かりづらくなるため、情報を精査する必要があります。

2 つ目に、町民に提供される情報が不足しています。町民は、日頃から施策に触れる機会がないため、評価の実感が伝わりづらいと考えます。町民の視点に立った分かりやすい評価内容にするとともに、その取り組みをホームページ等の媒体により適切に情報提供することが必要です。

最後に、新型コロナウイルスを始め、将来的に様々な課題に直面することが想定されますが、どのような状況においても、これまでの地方創生の取組で得られた成果を途切れさせることなく、町の魅力を生かした持続可能な地域づくりを推進することを期待しています。